

東日本大震災の被災地を「食」で
支えようと、国際医療ボランティア
AMDA（岡山市北区伊福町）の呼
び掛けに賛同した「AMDA支援農
場」が、現地に米を送る活動を続
けている。2013年度のスタート以降、

東日本大震災
5年

送付量は3500キロ以上。AMDAはさ
らなる協力者・団体を募っており、
支援先の拡大のほか、南海トラフ地
震を想定した食料の調達システムの
構築も目指している。（水嶋佑香）

13年度スタート AMDA支援農場



被災地を「食」で支えようと、2015
年度にAMDA支援農場から提供さ
れた米＝昨年12月

被災地「食」で支える

AMDAによると、個人農家を中心
に、農業高校などを支援農場に認定し、現在は県内の59個人・団
体で活動する。米を収穫する秋以降、1個人
・団体当たり30キロを上限に提供してもらい、13年
度は1350キロ、14年度は1440キロを送付。15年度も12月時点で千キロを既に超えた。

米の届け先の中心は現人農家を中心に、農業高
校などを支援農場に認定し、現在は県内の59個人・団
体で活動する。米を収穫する秋以降、1個人・団体
当たり30キロを上限に提供してもらい、13年度は
1350キロ、14年度は1440キロを送付。15年度
も12月時点で千キロを既に超えた。

米の届け先の中心は現やカレーといった食事が
在、仙台市でホームレス支援を手掛けるNPO法人
「仙台夜まわりグループ」に提供してもらっている。

「送ってもらった米には
現地では復興事業に伴う雇用が活気づく一方、短
期の解雇され、次の職に就くまでの間、路上生活
に陥る30～40代が目立つ。食事中は相談しやす
い和やかな雰囲気にな
り、自立支援にもつな
がられる。」と同法人の今井誠二
理事長。支援農場世話人

3500キロを超える米を送付

の赤木歳通さん(69)は
岡山市東区升田は「私
たち農家は支援したい
と思ってもなかなか
手段が見つけれない。
困っている人の元に
届くシステムはあり
がたい」と話す。

米の一部は県内で貧
困対策を目的に子ども
へ食事を提供する団体
にも託しており、AM
DAは支援農場をさら
に増やして送付先を拡
大。災害時の炊き出し
に用いる食料を調達で
きる仕組みづくりも検
討しているという。

AMDAの成沢貴子
理事長は「食は医療以
上に生きる上で不可欠
なもの。AMDAのネ
ットワークで農家のみ
なさんの思いをつなが
せてほしい」としてい
る。支援農場に関する
問い合わせはAMDA
(086-252-7700)。